世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

協力隊 活動レポートinセネガル

青年海外協力隊
平成23年度2次隊　エイズ対策
猿渡（さるわたり） 真由美（まゆみ）さん
（任地セネガル、荒尾市出身）

２011年９月２７日アフリカの地を踏みました。1年前の私には想像できなかったことです。青年海外協力隊の応募時、セネガルを第一志望にしたのですが、その時初めて地図でセネガルの位置を調べたくらいでした。「セネガルってどこね？」周りの人の反応もこうでした。そこで伝えるのは「首都はダカールていうとよ」です。ダカールと聞くと以前行われていた“パリ・ダカールラリー”を知っている人からは「あぁ」と良い反応が返ってきます。セネガルはアフリカの西方部、大西洋に面しています。気候はステップ気候といって雨季と乾季があり、乾季には短い丈の草しか生えてこないという気候です。しかし、私が到着したのは雨季が終わる頃。青々と茂った木々が心地よい陰を作ってくれています。

私が２年間お世話になる任地ンバケに入ったのは１０月２６日です。ンバケはダカールから約１８０ｋｍ内陸に入ったところで、車で３時間くらいかかります。隣町にはセネガル最大のモスクがあるトゥーバがあります。ンバケはその影響を受けイスラム色の強いところだそうです。確かにお酒、そして豚肉も売っていません。敬虔なイスラム教徒の人が多く、みなさん穏やかで親切です。

私が任地に着任して２週間後に、イスラムのお祭り「タバスキ」が行われました。タバスキは犠牲祭ともいって一家で一頭、羊を絞めて家族みんなでそれを頂くというお祭りです。私は先輩隊員の上司の家へお邪魔しました。お父さんが羊を捌き、子どもたちは内臓の処理をする。それをお母さんが調理するといったチームプレイができています。動物が食肉になっていく過程を私たち現代日本人は実際にほとんど見たことがありません。一見残酷に見えるこのお祭りですが、子どもたち、そして私に、食事ができる有難さ、命の大切さを教えてくれるお祭りでした。

セネガルに到着してまだ1ヶ月と少し。しかし、もう２年間のカウントダウンはスタートしています。これからが本番です。周りにいる人の力になれるよう一歩ずつ歩んでいきたいと思います。

現地で活動中の筆者（中央）

木々が木陰を作っているンバケの街道